

# 令和2年度 実践型地域づくり人材育成プログラム 成果報告会

24市区町の  
ケースから学ぶ

## 介護予防・生活支援の地域づくりに向けた 地域課題解決のプロセスとは

2021年2月3日



藤田医科大学

地域包括ケア人材教育支援センター

NTT DATA

株式会社NTTデータ 経営研究所

協力

豊明市

# プログラムの流れ

研修 2日間 × 5ヶ月

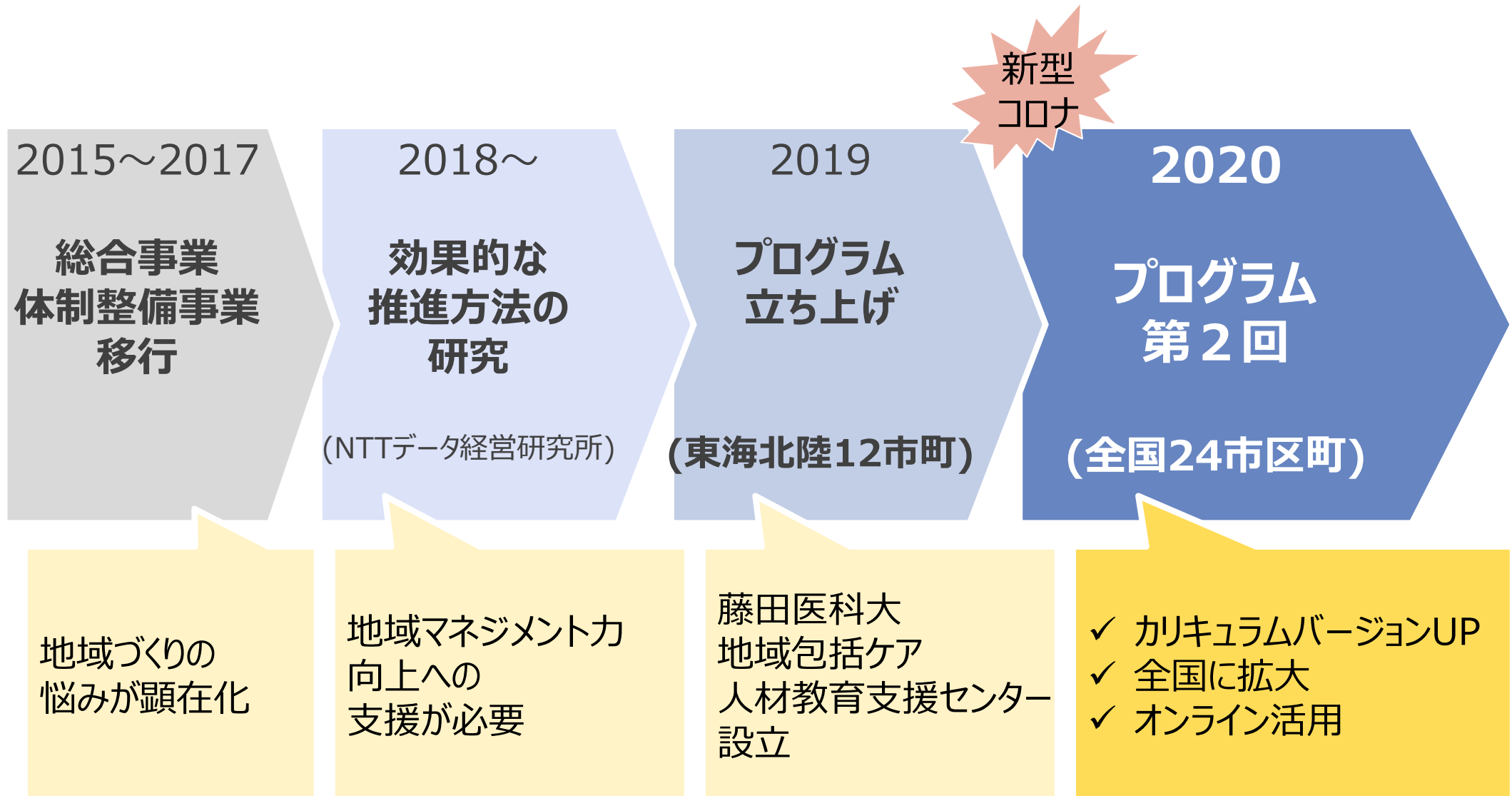


各回の間に課題提出

# 今日の見どころ

- ✓ 最初は**何が課題だと考えていたか**？
- ✓ 課題を考える「型」を学びながら、  
**思考がどのように変化**したのか？
- ✓ それは**なぜ**か？

# 総合事業移行後に顕在化した“地域づくりの壁”への対策としてPG開発



# 「地域包括ケア豊明モデル」 多数の視察はあるが・・・

全国自治体・視察件数ランキング2020

→ 記事一覧

## 「豊明モデル」が初の首位、2020年は新型コロナの影響大

「豊明モデル」が最多の271件、圧倒的トップに

今回の調査でトップに立ったのは、愛知県豊明（とよあけ）市の「地域包括ケア豊明モデル」だった。視察数は271件であり、第2位の神奈川県大和市の文化創造拠点「シリウス」を大きく引き離している。豊明モデルは、第2回（2018年）調査の53件、第3回（2019年）調査の110件から大きく数を伸ばし、年を追って注目度が上がっていることがうかがえる結果となった。

豊明市の取り組みは、2018年7月にスタートした「高齢者が外出したくなるまちづくり」にさかのぼる。高齢になっても不自由なく暮らせる社会を目指し、民間企業と ...

地域包括ケア  
豊明モデル



<https://www.city.toyohira.lg.jp/6438.htm>

**取組そのものをマネようとしても、うまくいかない！**

# 「地域包括ケア豊明モデル」の根底にあるものとは？

## 基礎自治体職員としての意識・姿勢・行動

- ✓ 「ふつうに暮らせるしあわせ」を支える視点
- ✓ 本当の課題は何かを問う
- ✓ 個別事例から考える
- ✓ 手足で情報を集め、自分の頭で考える
- ✓ 関係者と対話し、課題を共有する

・・・etc

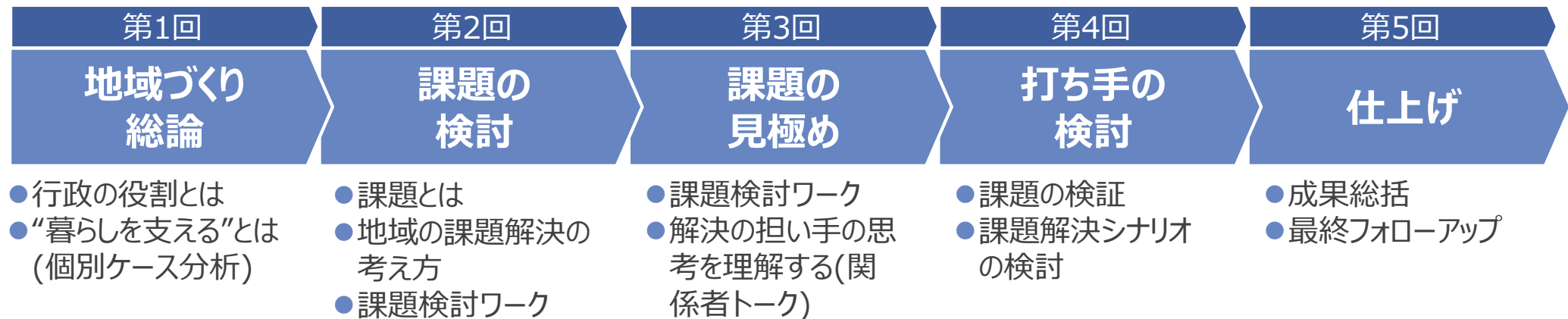


「ふつうに暮らせるしあわせ」を支える地域へ

# プログラムの全体像

藤田・豊明モデルの根底にある“型”の体得を目指し、  
講義→ワーク→実践→フィードバックを繰り返す

## プログラムの流れ



オンサイト  
(事前課題)



※フィジビリティスタディ（実現可能性の検討・検証）

## 各回のゴール

✓ 意識・意欲  
✓ ベース知識のセット

✓ 課題解決プロセス  
の理解

✓ 課題の質の向上

✓ 課題解決策のブ  
ラッシュアップ

✓ 思考の可視化  
✓ 組織内への伝搬



# コロナ禍における新たなコミュニケーションへのトライ

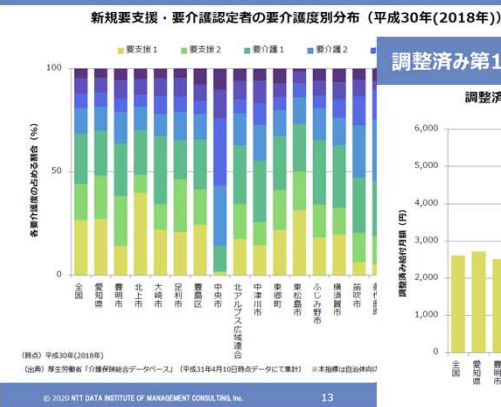
## 本プログラムのグラウンドルール

心地よく、効果的にプログラムの目的を達成するための、全参加者共通のルールです。

- よく聴く**  
講師の話はもちろん、他の市町村や地域関係者の話など、すべてが「学び」の材料です。「自分には関係ない」ではなく、他者の考えによく耳を傾け、ヒントをつかもうとする姿勢を大切にしてください。
- やってみる**  
プログラムで気づいたことや得た学びは、実践してみましょう。「わかる」と「できる」は違います。このプログラムでは、実際にやってみて初めて気づくことやわかることを大切にいきます。
- 共有する**  
言葉を尽くして伝えましょう。あなたの考えを知ることでも周囲よりよい助言ができます。また、一緒に働く仲間や地域の関係者と気づきや学びを共有することでチームとしての力を高めることができます。
- つながる**  
講師陣、他の市町村とのつながりは後々の財産になるはず。積極的にコミュニケーションしていきましょう。また、プログラムをきっかけに地域の関係者とつながることも意識していきましょう。
- 楽しむ**  
楽しいところには集まります。真剣に取り組みつつも前向きに。そして他者も前向きでいられるような雰囲気をつくることを心がけましょう。違いを受け入れる、否定をしないなど、相手を尊重することも忘れずに。

## 学び合いのためのグラウンドルール

### 要介護認定の状況（新規認定者の分布）



### 調整済み第1号被保険者1人あたり給付月額（通所介護：2017）



## データをふまえた対話

**第3回オンライン懇親会**  
18:00~19:00 11/16, 2020  
FREE DRINK

～流れ～  
挨拶：藤田医科大学 池田 寛  
1. 参加者の自己紹介  
2. 息抜きトーク（本日のご意見・ご感想）  
3. 他市町さんとお話しあい  
中継の挨拶：藤田医科大学 都築 晃

「参加自治体」  
オンライン参加  
豊島区：岡崎さん  
茨木市：森さん  
鳥取市：藤原さん  
笛吹市：雨宮さん  
現地参加  
奄美市：岩崎さん

## オンライン懇親会



11/19 12:45  
皆さま、ありがとうございます。本当に恐縮です。

只今お昼休みに皆さんのコメント拝見し、涙が出てこないかな～と思いながら、嬉しく感じております笑

昨日、2地域の協議体の定例に参加してきました。

事前のコーディネーターとの打ち合わせも全くないうまま毎回臨んでいるので（これには涙が溢れそうです）

場当たりの、出たと勝負の会議の場になってしまうため、改善の余地あります。

そんな中でも、お時間をいただき、メンバーの皆さんにアンケートを取ってみました。↓

また今日は県社協と体制整備事業について、意見交換を行なったところです。

さらに整理して、都度お知らせできればと思います。

## チャットによるコミュニケーション



# 第1回 地域づくり総論

学びの目標を確認



受講生自己紹介



行政の役割や専門性とは



現代は「せめぎあい」の時代

- グローバル化と国家の台頭
- 工業化とデジタル化（ポスト産業資本主義?）
- 新たなテクノロジーの積極活用とリスク社会化
- ヒエラルキーとネットワーク（タテとヨコ）

これからの社会と基礎自治体職員の役割

個別事例から暮らしの課題を考える



個別事例から見える暮らしの課題とは

## 第2回 課題の検討



“課題”と解決のための考え方の講義

課題とは



豊明市の関係者による解説

関係者から見た地域課題とその解決



わがまちの課題の検討を開始

課題検討ワーク





## 第3回 課題の見極め



検討してきた課題の  
共有とフィードバック



課題検討ワーク



豊明市で活動する  
医療福祉専門職と  
のテーマ別セッション



解決の担い手の思考を理解する(テーマ別セッション)

## 第4回 課題と打ち手を検討する



ワークによる課題・  
打ち手の解決プランの  
ブラッシュアップ



課題と打ち手の検討

検討してきた内容を  
課題解決シナリオに  
整理

市町村名：宮城県東松島市

	これまでの検討を踏まえて 現時点での設定	なぜ？ (裏付けする具体的な事実とともに)
目指す姿	地域の困っている人（要支援・要介護ケース）を介し、当事者の「暮らしぶり」「ありたい姿」を整理し、SCの専門性に基づいた情報とネットワークを駆使して包括とSCが双方向に連携する	（なぜそれを目指したいのか） 地域に孤立する人を探出し、地域で困っている人との支え合いの中で、自立した暮らし続けられる地域が必要。重症化してからの、地域での支え合いや繋がりがづくり。
現状	（目指す姿と現状のギャップを埋めるために取り組むべきこと） ・SCは個別ケースに関する機会・意識が少ない ・個別ケースは包括支援センターに集約され、包括とSCの連携ケースが少ない ・お互いが求められている役割、活かせる役割を理解していない	（なぜそうなのかな） SCの「個人の課題から地域の課題を見出す」ことへの意識が低いことから、個別ケースに深く関わることに消極的であり、包括とは一定の距離感がある。包括の業務量も多く、地域課題や地域資源を意識する余裕がない。※いずれも当事者とアライアンスによるもの。
課題	（目指す姿と現状のギャップを埋めるために取り組むべきこと） ・SCと包括支援センターとの共通体験、協働事例の不足 ・包括支援センターとSCの成し遂げたいことの共有 ・ありたい姿の実現・専門性を活かしてもらうための行政の役割 →「やりがい創出」 データや事例の提示 「負担軽減のサポート」 →行政の必要なサポート 「マンパワー不足、保健師不足の現実」 →報告書形式の負担軽減、対話による見直し	（なぜそう考えたのか） ・包括の活動フィールドで協働することで、互いの課題意識や目指す姿を共有する機会となる。 ・個別ケースに対し共同して支援に関わる体験を通して、地域課題、地域資源、支え合いを意識化できる。 ・SCの活動を深化させることを求める一方、提出書類等の煩雑化で、活動や意識が停滞している。
打ち手	（どこから手をつけるか、それによって誰の何が変わっていくのか） →お互いの視点・価値の共有 ・SCが首脳体験（地域サロンの）で気になる人、総合事業（訪問C）につなげる →サービス後の地域での暮らしに繋げるための継続的連携 ・包括支援ネットワーク会議が開始 包括、SC、包括化支援相談員による事例検討、ケース支援	（なぜそれが有効かと思うのか） ・SCの活動領域や関わる人が固定化できている、新たな資源やネットワーク、課題の発見がなくなっている。 ・重症化する前からの、本人の地域での自立した暮らしの実現と、支援が必要な人を受け入れ、支え合う地域づくりに繋がる。 ※これにより「どんな人が助かる」といった具体像が描けていない。

課題解決シナリオの検討



ネットワーキング

## 本日（第5回）のねらい

# 本日は、24自治体のケースを踏まえた“学び合い”の場

プログラム  
参加市町村

学びを総括・言語化し、組織へ共有・展開する

他の市町村、  
地域づくり  
関係者

わがまちの地域づくりに向けたヒントを得る

市町村を  
支援する  
都道府県等

市町村の実情を知り、支援方策のヒントを得る

# 藤田医科大学の継続支援

## 今後の継続した支援と情報共有が重要

正解がない

相談したい

課題も人も変化

伴走者が必要

実践と効果判定

予算や時間が必要

- ・個別支援 メール相談
- ・次回オブザーバー参加
- ・現地支援
- ・民間や新サービス紹介
- ・同窓会や情報交換会  
ほか..

修了生や修了自治体が、近似課題をもつ他市町のモデルになる。

# 今日の見どころ

- ✓ 最初は**何が課題だと考えていたか？**
- ✓ 課題を考える「型」を学びながら、  
**思考がどのように変化**したのか？
- ✓ それは**なぜ**か？



# 関連情報



## 2018年度伴走型支援の成果物 「介護予防・日常生活支援総合事業、生活支援 体制整備事業これからの推進に向けて ～マンガでわかる推進ストーリー～」

[https://www.nttdata-strategy.com/services/lifevalue/docs/h30\\_04\\_2\\_jigyohokokus-ho.pdf](https://www.nttdata-strategy.com/services/lifevalue/docs/h30_04_2_jigyohokokus-ho.pdf)



## 令和2年度実践型地域づくり人材育成プログラム 研修の様子

<http://www.fujita-hu.ac.jp/~chuukaku/kyouikushien/repo2/index.html>

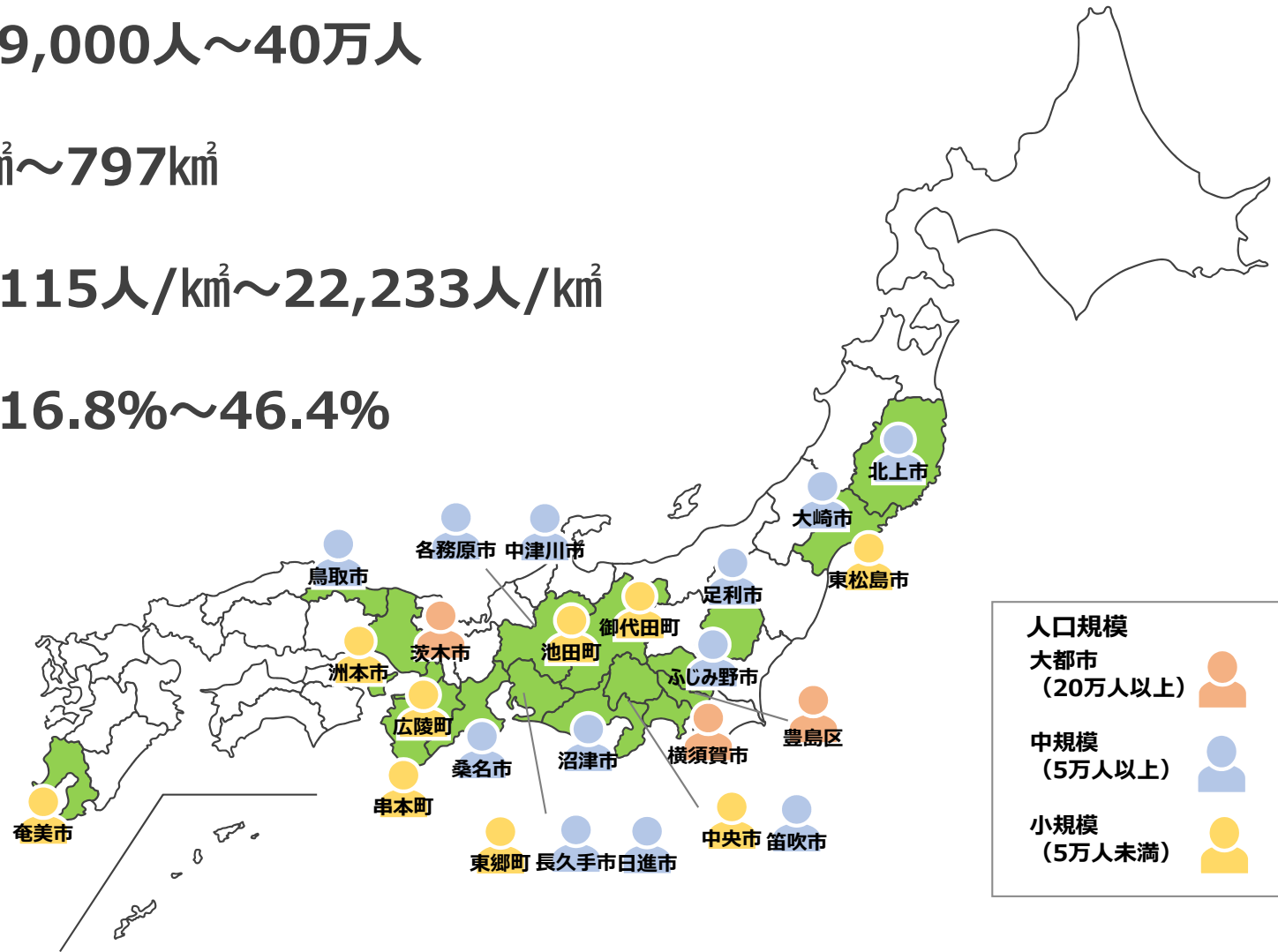


# プログラム受講生による報告

# 多様な市区町・多様な観点

## — 参加24市区町の基礎データ —

- 人口規模 9,000人～40万人
- 面積 13km<sup>2</sup>～797km<sup>2</sup>
- 人口密度 115人/km<sup>2</sup>～22,233人/km<sup>2</sup>
- 高齢化率 16.8%～46.4%



# 本プログラムのグラウンドルール

心地よく、効果的にプログラムの目的を達成するための、全参加者共通のルールです。

1

## よく聴く

講師の話はもちろん、他の市町村や地域関係者の話など、すべてが「学び」の材料です。「自分には関係ない」ではなく、他者の考えによく耳を傾け、ヒントをつかもうとする姿勢を大切にしてください。

2

## やってみる

プログラムで気づいたことや得た学びは、実践してみましょう。「わかる」と「できる」は違います。このプログラムでは、実際にやってみて初めて気づくことやわかることを大切にしていきます。

3

## 共有する

言葉を尽くして伝えましょう。あなたの考えを知ることで周囲もよりよい助言ができます。また、一緒に働く仲間や地域の関係者と気づきや学びを共有することでチームとしての力を高めることができます。

4

## つながる

講師陣、他の市町村とのつながりは後々の財産になるはずです。積極的にコミュニケーションしていきましょう。また、プログラムをきっかけに地域の関係者とつながることも意識していきましょう。

5

## 楽しむ

楽しいところに人は集まります。真剣に取り組みつつも前向きに。そして他者も前向きでいられるような雰囲気をつくることを心がけましょう。違いを受け入れる、否定をしないなど、相手を尊重することも忘れずに。

# 共感コメントをきかせてください

Zoomのチャット機能を使えば、みなさんのひとこと共感コメントを投稿できます



The image shows a Zoom meeting interface. A yellow box highlights the 'チャット' (Chat) button in the bottom toolbar. A large yellow arrow points from this button to a yellow-bordered box containing instructions. To the right, a dropdown menu is shown with the recipient list.

- ひとこと共感コメント  
👉 「すべてのパネリストおよび出席者」を選択
- 運営側への連絡事項  
👉 「すべてのパネリスト」を選択

してコメントしてください。

宛先：  
あなたです

- ✓ すべてのパネリスト
- すべてのパネリストおよび出席者